

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、健康な心身の育成と社会生活に必要な生活能力の育成を図る。

<校訓> あかるく元気な子 なかよく助けあう子 力いっぱいがんばる子

2 学校の特徴

本校は、知的障害のある児童生徒の教育を目的として県下で最も早く設置された学校であり、小学部・中学部・高等部の3つの学部で構成されている。また、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のための訪問教育や、集団生活を通して生活自立を目指すための寄宿舎が併設されており、本年度は全校児童生徒223名が在籍している。

- (1) 心の触れ合いを大切にしながら、個性を尊重した温かい人間関係と豊かな情操の育成に努めている。
- (2) 児童生徒一人一人の障害の状況や興味・関心を大切にしながら、それぞれの教育的ニーズに応じて、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、生活自立と社会参加に向けた指導・支援を実践している。
- (3) 健康で安全な生活習慣や態度が身に付くよう体力づくりに努めるとともに、安全教育を計画的・組織的に実践している。
- (4) 家庭及び地域、関係機関等と連携し、開かれた学校づくりの推進に努めている。
- (5) 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図るとともに、教員の専門性の向上に努めている。

3 学校の現状と課題

- ・本校は、重複障害児が約3割、自閉症スペクトラム障害等発達障害を併せ有する児童生徒が約5割在籍し、障害の状態も重度・重複化、多様化している。したがって、児童生徒一人一人の障害特性に応じた専門的知識や系統的・組織的な対応力が必要である。
- ・学習面や生活面、人間関係づくり等将来的な展望に立った教育的ニーズを的確に把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた指導・支援の充実に努めている。小学部から高等部まで連続性のある一貫した取組となるよう教員、保護者、関係機関と綿密な連携を図る必要がある。
- ・児童生徒が心身共に健康で安全な生活が送れるよう、児童生徒の実態や発達段階に合わせた体力づくりを推進するとともに、感染症の予防に係わる指導や感染防止対策の整備に努める必要がある。
- ・教員一人一人が、危機管理に関する意識を高め、児童生徒への安全教育の徹底を図るとともに、不測の事態に対して組織的に対応できる学校づくりに努める必要がある。
- ・児童生徒への適切な支援のための合理的配慮や教育方針等に関して、保護者との合意形成を十分に図るとともに、地域や保健・福祉・医療・労働等の関係機関とネットワークを形成することで、家庭全体を支える体制づくりに努める必要がある。
- ・卒業後の豊かな生活を目指して、よりよい生活環境や就労環境を整えるため進路支援体制をより充実させていく必要がある。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画		
1	学習活動	教務	目標	・学習指導要領に示された目標及び内容に基づいて指導し、学習状況を適切に評価し、授業改善できるよう、個別の指導計画の充実を図る。
			計画	・本校の児童生徒の実態、学習指導要領の育成する資質、能力を踏まえ、年間学習指導計画の単元や指導内容を検討する。 ・個別の指導計画の意義や機能、令和3年度に見直した本校の個別の指導計画の様式の記入・活用方法が分かりやすくなるよう、現在のマニュアルを変更する。また、周知する機会を設ける。
		各学部	目標	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、効果的な学習指導及び支援に努める。
			計画	・各教科等の目標と内容や児童生徒の実態に応じた指導方法について、共通理解を図る機会を設定し、一人一人の指導・支援に生かしていく。
		研修	目標	・主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行うことで、一人一人の学びが深まる指導・支援の在り方を検討する。
			計画	・一人一人の学びが深まる授業の在り方について研修会を実施する。 ・集団で行う授業において関わる教員全員でねらいを明確にした授業実践・評価をして授業改善する。
2	学校生活	保健	目標	・児童生徒が、健康で安全な生活を営むことができるようにする。
			計画	・日常生活における健康な生活習慣について児童生徒の意識を高める。家庭との連携を図り、好ましい習慣形成を図る。 ・緊急時の対応や感染防止等に関する基礎的な知識の研修や校内環境の整備を行うことにより、教職員の危機管理に対する意識や対応力の向上を図る。
		生徒指導	目標	・安心安全なスクールバス運行のための体制整備を図る。
			計画	・スクールバス運行会社の介助員、運転手と毎日の登下校時に情報交換をし、定期的に連絡会を開催して運行についての共通理解を図る。 ・児童生徒及び教員や保護者にスクールバス乗車における、ルール等について周知徹底の機会をもつ。
		寄宿舎	目標	・一人一人に応じた自立を目指し、生活支援の充実を図る。 ・舎生が寄宿舎で安心安全に過ごすことができるようにする。
			計画	・舎生の実態や行動特性等を「寄宿舎生活の記録」を用いて共通理解し一人一人の支援に生かす。 ・行事や交流活動、グループ活動などを通して経験を積み、余暇の充実を図る。 ・様々なケースを想定した避難訓練や感染症対策、投薬管理を実践する。また、ヒヤリハット事例を共有することにより、危機管理に対する職員の意識や対応力を向上させる。

3	進路支援	進路指導	目標	<ul style="list-style-type: none"> 本人、保護者のニーズに応じた進路決定に向けて、校内での共通理解を図ったり、地域の関係機関と連携したりしながら進路指導を進める。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 本人、保護者の進路希望や就業体験の結果を踏まえ、学年会や進路指導委員会で進路指導の方向性や進め方について話し合い、共通理解を図りながら進路指導を進める。 進路決定及び進路先への円滑な移行が難しいと想定される生徒においては、関係機関を交えた進路ケース会議を行い、連携を図りながら進路指導を行う。
4	特別活動	特活 重点課題1	目標	<ul style="list-style-type: none"> <u>生徒が主体的に生徒会活動に取り組めるよう支援の充実に努める。</u>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <u>年間活動計画を立て、生徒が見通しをもって活動に取り組めるようにする。</u> <u>活動の場や時間の設定等、支援方法を工夫し、積極的に取り組める環境を整える。</u>
		図書	目標	<ul style="list-style-type: none"> 読書環境の充実を図り、児童生徒の読書に対する興味・関心を高め、読書活動の推進を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が利用しやすい図書室の環境づくりを行う。 生徒会図書委員会を中心として児童生徒にとって親しみやすい図書の紹介を行う。 児童生徒の生活年齢や発達年齢、障害の特性に応じた図書を選定し、小学部・中学部への移動図書、読み聞かせの会、校内読書感想画コンクールを実施する。
5	その他	教育相談	目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校コンサルテーションの視点から、本校の教育相談を見直し、センター的機能の強化・充実を図ることで、地域の幼稚園、保育園、小学校及び中学校等に在籍する幼児児童生徒等を支援する。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能を有効に発揮するための相談体制を充実させるために、地域の小・中学校等の支援体制に関する情報を収集して、学校コンサルテーションでの助言に生かす。
		総務 重点課題3	目標	<ul style="list-style-type: none"> <u>保護者が安心し、かつ安全に参加できるPTA活動の企画・運営をサポートし、内容の充実を図る。</u>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <u>感染症予防対策を十分にとり、保護者が安心して参加できる活動を計画する。</u>
		情報 重点課題2	目標	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末やプロジェクタ等のICT機器利用環境の整備や執務用PCの安全かつ効率的な情報管理運用を図る。 <u>職員のICT活用能力・技術の向上をめざし、授業等において積極的な活用を図る。</u>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 執務用PCの効果的な活用を促進するとともに、ICT機器を授業等で活用できるよう、環境を整える。 授業や分掌業務等の作業が円滑かつ効率的に進めることができるよう、サーバー内のフォルダ構成や保存するデータの整理・精選を行う。 <u>会議や授業等においてICT機器が積極的に活用できるよう、ICT機器の有効的な活用方法やアプリケーションに関する研修を行ったり、ICT機器を活用した授業研究を実施したりする。</u>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	特別活動(特活)
重点課題	意欲的かつ主体的な児童生徒会活動への参加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部5、6年、中学部、高等部の児童生徒が年2回ボランティア活動（地域清掃）やさわやか運動に参加したり、年間を通してペットボトルキャップ回収のエコキャップ運動に取り組んだりしている。 ・執行部の校内放送や委員会活動等、個々での活動に取り組む機会は多くあるが、特定の児童生徒の活動にとどまっておき、児童生徒会が一体となって取り組む機会は少ない。
達成目標	全校参加での生徒会活動
	5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会コーナーを設け、多くの児童生徒が関心を示す機会を増やす。 ・執行部や委員会活動等の掲示板を有効に利用し、広報活動等を積極的に行う。 ・エコキャップ回収箱や分別セットの設置、学部学年単位の材料を配布するなどして誰もが参加しやすい形態にする。 ・全校児童生徒に活動参加ポイントカードを配布し、自主的・意欲的な参加を促す。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	その他（ICT機器の活用）
重点課題	教員のICT活用能力の向上を図る
現 状	文部科学省のGIGAスクール構想による一人一台端末配備が本校においても行われ、昨年度までに児童生徒及び教員にタブレット端末（iPad）が配備された。また、電子黒板や大型モニター、プロジェクタなども各学部に配備され、ハード面での環境は整ってきている。しかし、タブレット端末を学習に有効的に活用するためのアプリケーションが不十分であったり、教員のITスキルにばらつきがあったりして、ソフト面での課題が見られる。今年度は、教育向けクラウドサービス「Google for Education」の児童生徒及び教員の利用を予定していることから、より一層の教員のITスキルが求められる。タブレット端末のアプリケーションの充実と教員のICT活用能力の向上が必須である。
達成目標	授業等でICTを活用した教員の割合 75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末に、児童生徒の実態に応じたアプリケーションをインストールしソフト面での充実を図る。 ・授業ですぐに活用できるような実践的な研修や情報提供を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（総務）
重点課題	コロナ禍での安心・安全で充実したPTA活動への取組
現 状	<p>本校は「“楽しむ” “つなぐ” “学ぶ” PTA活動」のスローガンのもと、毎年役員を選出し、執行部と五つの委員会に分かれて活動を計画し、実行している。新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度はほとんど活動できなかったが、昨年度は感染予防対策（手洗い、消毒、マスクの着用、体温や体調のチェック、換気）を行いながらできる活動を計画した。学部委員会は、ミニ講演会を、2回目以降はビデオ視聴とすることで、分散して行った。文化活動委員会は、「親と子の集い」の参加人数を制限し、回数を増やして行った。PTA活動が少しでもできてよかったという意見があったが、ビデオ視聴による講演では内容が聞き取りにくい、直接講師の先生に質問したかったなど不満が残る点もあった。今年度も新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがもてない中で、感染予防対策を行いながら、安心・安全で充実した活動を考え、取り組んでいきたい。</p>
達成目標	PTA活動の実施
	年間5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会ごとに集まり、参加人数を制限したり活動時間を短縮したりすること等、感染予防対策を行いながらも充実した内容になるような、活動を計画する。具体的には、資源回収やPTAたよりの発行、親と子の集いの実施、引渡し訓練の参加、施設見学を予定している。活動内容や様子をたより等で伝えるようにし、情報の共有を行う。 ・各活動の終了後にアンケートをとり、活動を振り返る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)